

令和3（2021）年度 学校経営方針

ブダペスト日本人学校 校長 松丸晴美

1. 学校経営の基調

〈設置者とステータス〉

ブダペスト日本人学校は、昭和51年（1976年）ブダペスト日本語補習校を母体とし、日本国政府の海外子女教育施策に基づき、平成17年（2005年）に現地の日本人会（現在ハンガリー日本商工会）により設置された教育施設である。

本校はこうした基盤に立って、文部科学省の認定する在外教育施設（日本人学校）として、文部科学省の定める学習指導要領に準拠し、かつハンガリーの特色を生かした教育課程を編成し、実施する。

2. 学校運営の理念

- I どの子供も磨けば輝く宝である。その子供の良さを発見し、伸ばすための効果的な指導の役割を担うのが教師である。
教師の言動は、子供の将来にわたって大きな影響力を及ぼすことを自覚し、専門性と人間力を高めるために日々研鑽を積む。
- II 常に社会の動向に注視し、時代の要請や変化を的確に把握し、教育内容や方法の改善を図っていく。また、組織の和を重んじ、良き伝統は受け継ぎ、課題解決に向けては、迅速かつ組織的に対応する。
- III 児童生徒・教師ともに、日本とハンガリー両国の文化交流、教育交流を通して、相互理解を深める教育活動を推進し、両国の友好・親善に努める。

3. 学校の教育目標

豊かな人間性と自ら考え主体的に判断して行動できる力、国際社会の中で活躍できる力の育成を目指して教育目標を設定し、具現化に向けた教育活動を推進する。

◎主体的・意欲的に学び、他者と協働しながら学びを深める児童生徒の育成（今年度の重点）

- 互いの違いを認め合い、思いやりの心をもって行動し自律した生活を送る児童生徒の育成
- 自らの健康の増進や体力の向上に、積極的に努める児童生徒の育成
- 日本やハンガリーの文化に興味・関心をもち、コミュニケーションを通して積極的に関わる児童生徒の育成

4. 目指す学校の姿

◇知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動を推進し、自ら考え、主体的に判断して行動できる力と国際社会の中で活躍できる力の育成を目指す学校。

◇小規模校の強みを生かし、一人一人の児童生徒に寄り添いながら教育活動を進め、児童生徒が学ぶ楽しさ、学ぶ喜びを体感できる学校。

5. 目指す児童生徒の姿

○心ほかほか

- ・自分を大切にするとともに、相手も大切にし、気持ちのいい挨拶ができる児童生徒

○瞳きらきら（今年度の重点目標）

- ・自分の考えをもち、適切な判断・表現をし、他者と協働しながら学びを深める児童生徒
- ・自学自習ができる児童生徒

○元気もりもり

- ・運動の楽しさを実感し、進んで体力向上やスポーツ活動に取り組む児童生徒

○交流わくわく

- ・ハンガリーの伝統や文化・自然に触れ、現地の人とより良いコミュニケーションを図ろうとする児童生徒

6. 目指す教師の姿

○学校経営方針に基づき、各分掌・学部等のチームで共通理解を図りながら、目標の達成に向けて一人一人が責任と役割を果たす教師。

○児童生徒の心情をよく理解し、自己実現に向けて共感的に寄り添い、労を惜しまず支援する教師

◎**サービスを遵守し、学習指導や生徒指導の専門性を磨き、資質・能力の向上を目指して努力し続ける教師。特に新学習指導要領改訂の背景や内容についての理解を深め、実践に生かす教師（今年度の重点）**

○社会の動向を注視し、学校運営への参画意識をもちながら、主体的かつ組織的に職務を遂行する教師

○ハンガリーの伝統や文化、教育事情等を理解するとともに、帰国後に、在外教育施設での教育実践や体験を広く生かそうとする意欲や態度をもつ教師

7. 期待する保護者・学校関係者の姿

○我が子のしつけを責任もって行い、社会性の育成に向けて学校と連携・連絡を密にして**共育**する保護者

○学校に建設的な意見を述べ、積極的にボランティアとしてかかわる保護者

8. 学校運営の基本となる7つの柱

（1）児童生徒の安全安心な学校生活の実現

- ① 新型コロナウイルス感染症防止に向けて、児童生徒の健康観察と衛生指導を徹底するとともに、清掃活動を通じて、衛生的な学習環境を保持する。
- ② 新型コロナウイルス感染症防止のために、常に、換気・マスクの適切な着用・3密の状態回避を心掛けた教育活動を計画し、実施する。
- ③ 学校施設・設備の日常的・定期的な点検を行い、事故の未然防止に努める。
- ④ 学校安全対策マニュアルに基づき、各種の避難訓練や安全指導を通し、児童生徒の危機管理意識を向上させ、自ら危険を回避しようとする意欲・態度・能力を育てる。

- ⑤ 登下校や休み時間は、児童生徒の見守りと適切な指導を行い、事故防止に努める。

(2) 豊かな心の醸成

- ① 「特別の教科 道徳」を要に、全教育活動を通して互いの生命や人権を尊重し、思いやりのある心と態度を育てるとともに、児童生徒が道徳的価値について理解し、実践する態度を育てる。
- ② 児童生徒会活動や係活動を通して、主体的に活動しようとする意欲や協力して役割を果たそうとする態度を養う。
- ③ 児童生徒が主体的にかかわる学校行事や特別活動の運営に努める。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、自らの学びを社会とよりよく関わろうとする意欲や生活に生かそうとする態度の醸成を図るため、以下の6点を授業改善の柱とする。

- ① 言語能力の育成
 - ・教師の言葉、板書、教師と児童生徒・児童生徒同士の話し言葉、国語科を要とした言語活動、読書活動などを通して、言語能力の向上に努める。
- ② 情報活用能力の育成
 - ・オンライン授業の経験を活かし、コンピュータ等を適切に活用した学習活動の充実に努める。
 - ・小学部では、プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を取り入れる。
- ③ 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の充実
 - ・児童生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動を意図的に取り入れ、自ら学習に向かい、目的意識をもって活動する力を育む。
- ④ 体験的な活動の推進
 - ・各教科の特質に応じ、児童生徒が主体的に、また他者と協働しながら学ぶ機会を意図的に設け、学ぶ楽しさや協働のすることの重要性を体感できるようにする。
- ⑤ 課題選択及び自主的・自発的な学習の充実
 - ・児童生徒が課題を見つけ、自分なりの方法を選択して解決に取り組めるような学習活動を意図的・計画的に取り入れ、自ら考え実践する力を育む。
 - ・適切な助言や指導を行い、家庭学習習慣の確立や自学自習できる力を伸長する。
- ⑥ 学校図書館や地域の公共施設等を活用した学びの推進
 - ・図書室や公共施設等が、知的好奇心を醸成する開かれた学びの場になるように各種の活動を工夫する。

(4) 自国及び他国の伝統・文化を尊重する態度と現地の人々と積極的にかかわりより良い人間関係を築こうとする意欲の醸成

- ① 日本の伝統・文化に対する理解を深める授業や教育活動等を通し、我が国の良さを知り、郷土を愛する心や態度を培う。
- ② ハンガリーでの生活や校外学習、現地校児童等との交流、ハンガリー語の学習を通して異文化理解を促進するとともに、国際社会の一員としての意識を醸成する。
- ③ 英語・英会話・外国語活動の学習を通して、実践的な英語活用能力を高める。

(5) 自ら進んで健康体力の保持・増進に努めようとする児童生徒の育成

- ① 毎日の検温や体調管理に努め、手洗いやマスクの着用、三密の回避など、新型コロナウイルス感染症防止に向けて、児童生徒が進んで衛生管理に努める態度を育む。
- ② 体力向上を目指し、意図的・計画的な体育・保健体育の授業及び部活動を推進する。
- ③ 中休みや昼休みを使い、遊びやレクリエーション、運動・スポーツ活動を通して、児童生徒の豊かなスポーツライフの基礎を培う。

(6) キャリア教育の推進

児童生徒のキャリア教育に関わる諸活動について、児童生徒自身が自らの学習状況や目標の実現状況を把握しながら、自身の変容や成長を自己評価できるような「B J S パスポート」を作成し、活用を図る。

(7) 保護者への適切な情報の発信と信頼できる学校づくり

- ① 学校だよりや保護者へのお知らせを通じて、学校の方針や教育活動の見通しなどを保護者に適宜発信する。
- ② 個人情報の保護に留意しながら、ホームページや学級通信を通して、児童生徒の学校生活の様子を適宜発信する。
- ③ 保護者との個別の相談、こまめな連絡を通して、一人一人の児童生徒や保護者に寄り添った学級経営を推進する。